



～教会の節分「四旬節(しじゅんせつ)」～

↑**主の平安** 日本では春夏秋冬のそれぞれの始まりを「立春」、「立夏」、「立秋」、「立冬」と呼び、その総称を「節分」と言いますが、季節の変わり目は邪気が生じるので、厄を追い払うためにいろいろな行事が行われます。2月は豆まきで、鬼を追い出す楽しい日となっています。確かに季節の変わり目は体調が整わないなどの変化が多いです。十分に気をつけたいものです。

さて、教会では「復活祭」＝イースターの46日前からを「四旬節」と呼びます。その四旬節の期間が今月から始まりました。復活祭はクリスマスと異なり、祝日が移動します。今年は4月5日(日)が復活祭になりますので、その46日前の2月18日(水)が「灰の水曜日」と言って四旬節の始まりとなり、その日に司祭は「あなたは塵であり、また塵に帰るのです」「回心して福音を信じなさい」と言いながら信者の額や頭に灰で十字架の印をします。その後、イエスが宣教する前に荒野で40日間断食したことに倣い、食生活を節制しながら、自分の罪の悔い改めと祈りを捧げる日々を復活祭を迎えるまで送ります。

「節分」は「四旬節」と似ています。自分自身の弱さや欠点を見つめて受け入れることで直すべきものを見分けることなのです。追い出すべきものは何なのかを探るために心の中への旅を続けて行きましょう。 園長 福岡



～心はいつもいっしょにいるよ～

お母さんが帰ったことに気がついた〇〇君「ママは？ ママ」と叫んで泣きながらママを探しました。近くにいた□□君が側に来て「泣いてるねー」、☆☆ちゃん「ママ帰ったよ！」「うあーん！！」ますます大きな声で泣き叫びます。「あとでくるよ！」と声をかけ泣いている友だちを心配そうに覗き込む△△君...しばらくして泣き止むと、お部屋の中をゆっくり歩きながら、仲のいいお友だちの側でお仕事を始めました。言葉では上手く伝えられないけど、ママが帰って寂しい気持ちを分かち合う子どもたち...

また、子どもは共通点を見つけるのが大好きです。友だちが自分と同じ形や色の物を持っていたり、着ていると「いっしょだね！」「同じだね！」「かわいいね！」と共感しあいます。2歳児さんでも、共感する気持ちを分かち合ったり、嬉しかったり、寂しい時、寄り添うことを知っています。日々人間関係を広げながら成長しています。先日はAさんたちも作品展に向け最後の追い込みに入っている様子を見ました。どの子どもも作品を作りながら自分と向き合い、魂を磨いていたでしょう。ひとつひとつの作品がそれぞれ素晴らしく、その過程を想像するだけで身震いがしました。先生方は、子どもたちと話し合いながらどのようにすればその作品がよりクオリティーの高い作品になるのか考えたり、仕上げ用の額の紙を探したり、大きいセロハンを探したり...子どもひとりひとりの心に寄り添いながら、作り上げる喜び・達成感を感じて欲しいと願い援助しています。

側でAさんの頑張る姿を見守っているB・C・Dさん。どの年齢の子どもも、自分自身を成長させる為、毎日生活しています。大人は、子どもの精神部分に触れる事はできませんが、人生の先輩として心を寄せ、人間の成長や幸福に本当に必要で大切なものは何なのかを思いめぐらし、より深く確かなものを礎として子育てすることが大切です。



主任 福岡



～「できる」を信じて～

「ひとりのできるからみてね。」先日の朝のことです。Dの〇〇くんが、自分が脱いだ制服とダウンジャケットを丁寧にハンガーにかけ、制服のボタンをしめ、そしてダウンジャケットのファスナーをかけ始めました。金具ががかりそうで外れ...を繰り返しながら、はじめは机でしていた〇〇くんでしたが、途中から脇目もふらず床の上で一生懸命に目の前のファスナーに挑戦する姿がありました。もどかしさを感じつつも、最後まであきらめなかった〇〇くん。「...せんせい！できたよ！！」しばらく格闘した末、晴れ晴れとした表情の〇〇くんと2人で笑う時間がとても温かく感じました。

モンテッソーリ教育を知る前までは、子どもを手伝う(代わりにやってあげる)ことも優しさだと思っていました。この一年間を通して、子どものできそうなことはゆっくりとやり方を見せてあげて、そのあとは子どもにゆずって見守ることで、自分でしようとする力・自分の感覚を使って集中する力が身に付いてくるのだと感じました。これからは子どもの「できる」を信じて向き合い、「できた」喜びと一緒に味わえるように寄り添っていきたくです。

田中



～子どもの姿から～



毎日子どもたちの声や笑顔、成長に私自身元気や喜びをもらいながら過ごした一年でした。何よりも、子どもたちの苦戦しながらも諦めないで頑張る姿、「できた！」という表情はとても輝いていると思います。諦めずに試行錯誤しながら自分で考える、という経験は子どもたちに自信を与え、自立に向かうために大切なことだと実感しました。「どうやるの」「手伝って」と言っていた子どもたちも「自分でできる」「やってみる」という声に変わり成長を感じます。モンテッソーリ教育に出会い、すぐに助けることが子どもにとっての本当の親切ではなく、自分で考える時間や気持ちを尊重することが何よりも大切だということを学べました。これからは子どもたちの心に寄り添いながら、子どもたちと共に私自身も成長していけるようにしたいです。

森水

★作品展によせて★



●「マリアさまの好きなゆりの花を作る！私も好きだから！」とすぐに決まった☆☆ちゃん。作っていく中でめしべやおしべの色など、花の仕組みに疑問をもちました。図鑑を開き、疑問点を自分で解決する中で☆☆ちゃん表情は、キラキラと輝いていました。☆☆ちゃんはゆりの花に興味をもち、図鑑に出会い、わからないことや知りたいことは調べられるという経験をしました。



ひとつの作品を作る過程の中でたくさんの学びがある子どもたちに毎日とても驚かされています。作品展を通して、興味をもったことを自由に選び、試行錯誤しながら、責任をもってやり遂げることを学んでいるAさんたちです。

有田

●卒園を前にA組さんがひとりひとり心をこめて作り上げる作品展。

約1カ月の期間で何を作るか、どんな色にするのか...毎日、自分とそして作品と向き合う子どもたちの姿を感じました。子どもたちは、自分が得意とするものと“作りたい物”が一致するとは限らない為、作りながら試行錯誤する日々でした。

そんな中、先日一人の男の子が、作品を作りながら、「先生、ぼくね、作品展楽しみになってきた。Bさんの時、〇〇君が作った恐竜、すごかったもん。だからぼくも頑張る。」と、お話してくれました。

昨年の作品展の様子を鮮明に覚えていたこと、そこから自分への力に変えられることに成長を感じました。

今年もAさんたちの頑張る姿をB・C・Dぐみさんは、目を輝かせ、尊敬の眼差しで見つめています。その眼差しから、Aさんになったら... という心の声が聞こえてきます。

二宮



★絵本の紹介★ 子どもへの愛を伝える絵本

Vol.2

「なまえは なあに？」

ぶん・え かさいまり ありす館

我が子に贈る一番最初のプレゼント...名前。

たくさんの思いが詰まっている事を、子どもにわかりやすく伝えます。お父さん、お母さんも子どもの誕生を思い出し幸福感到満たされます。



「あかちゃんが うまれても わたしのこと すき？」

リサ・Tパーグレンさくローラン・J・ブライアント ドキッとするタイトルですね。第2子が生まれること、子どもにとって嬉しくもあり、不安でもあり、様々な思いが交錯しますが、親子がしっかり向きあい、ひとつひとつの疑問を解決しながら家族が増える喜びを感じ、誰もが愛されている子どもであることを伝えます。パパとママの語りかけが心にしみるあたたかい絵本です。



「わたしの あかちゃん」

ぶん・澤口たまみ 津田真帆

産後4日間の赤ちゃんの様子とお母さんの気持ちを代弁しながら、物語は進んでいきます。本文の「生まれてきてくれてありがとう」は、何度でも子どもに伝えたい言葉ですね。



Aぐみ・Aさん→年長児
Bぐみ・Bさん→年中児
Cぐみ・Cさん→年少児
Dぐみ・Dさん→満3歳児



学校法人カトリック学園 ひまわり幼稚園

〒891-0113 鹿児島市東谷山3丁目31-13 TEL:099-268-2340

FAX:268-2333